

守山企業景況調査報告書

(第34回)

平成30年1月～平成30年3月期 実績

平成30年4月～平成30年6月期 見通し

守山企業景況調査について

(平成 30 年 1 月～平成 30 年 3 月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 69 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

| 産業別 | 調査対象企業数 | 有効回答企業数 | 回収率 |
|-------|---------|---------|--------|
| 小売業 | 20 | 17 | 85.0% |
| 製造業 | 13 | 12 | 92.3% |
| 建設業 | 12 | 10 | 83.3% |
| サービス業 | 19 | 17 | 89.5% |
| 卸売業 | 5 | 5 | 100.0% |
| 合計 | 69 | 61 | 88.4% |

3. 調査期間

調査期間は、実績を平成 30 年 1 月～平成 30 年 3 月、見通しを平成 30 年 4 月～平成 30 年 6 月とし、調査時点は平成 30 年 4 月 30 日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標として DI 指数を採用した。DI 指数とは DIffusion Index (景気動向指数) の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」の DI 指数は 3 カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

平成30年1月～3月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果はDI指数（景気動向指数）を用いて示している。

DIは、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DIが±0の状態であれば、「増加」「好転」等の企業割合と「減少」「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆にDIがマイナスの数値であれば、「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

平成30年1月～3月期の調査結果では、業況、売上高、採算の3指標の数値が上昇した。

<業況>

業況DIは3.3で前回調査の▲3.4から6.7ポイント上昇した。業種別では、小売業0.0（前回調査比±0）、製造業8.3（前回調査比▲1.7）、建設業10.0（前回調査比+10.0）、サービス業0.0（前回調査比23.5）、卸売業0.0（前回調査比▲20.0）と建設業、サービス業が上昇した。

4月～6月期見通しは全体で▲3.4であり、低下の見込である。

<売上高>

売上高DIは23.0で前回調査より9.7ポイント上昇した。業種別では、小売業29.4（前回調査比+23.1）、製造業25.0（前回調査比▲20.5）、建設業20.0（前回調査比+20.0）、サービス業11.8（前回調査比+17.7）、卸売業40.0（前回調査比▲20.0）であり、小売業、建設業、サービス業の3業種は上昇した。

4月～6月期見通しは全体0.0となっており、低下の見込である。

<採算（経常利益）>

採算（経常利益）DIは0.0で前回調査より5.1ポイント上昇した。業種別では、小売業5.9（前回調査比+5.9）、製造業▲8.3（前回調査比▲26.5）、建設業10.0（前回調査比+19.1）、サービス業▲11.8（前回調査比+17.6）、卸売業20.0（前回調査比±0.0）で小売業、建設業、サービス業が上昇し、卸売業が横ばい、製造業は低下であった。

4月～6月期見通しは全体で▲6.7であり低下の見通しである。

<資金繰り>

資金繰りDIは1.8で前回調査から7.0ポイント低下した。業種別では小売業▲6.3（前回調査比▲25.1）、製造業0.0（前回調査比▲10.0）、建設業20.0（前回調査比+1.8）、サービス業0.0（前回調査比+6.7）、卸売業0.0（前回調査比±0.0）であった。

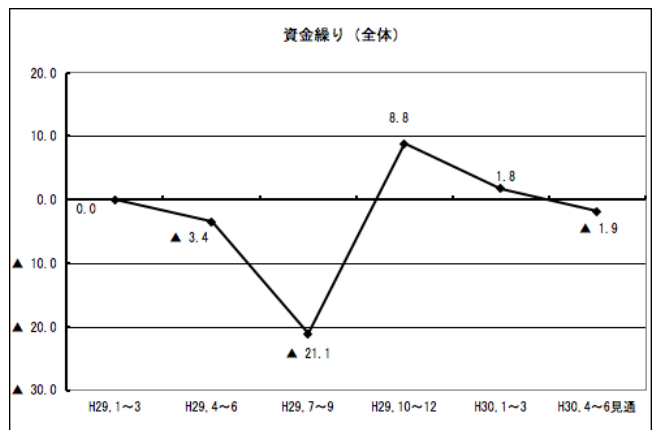
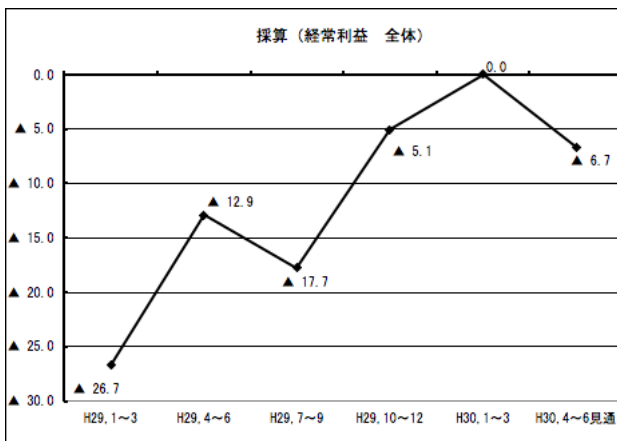
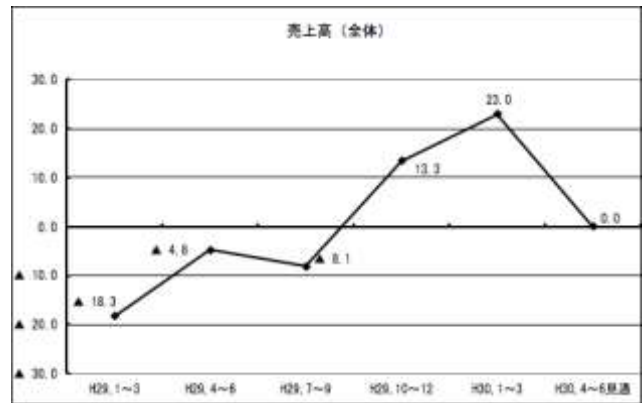
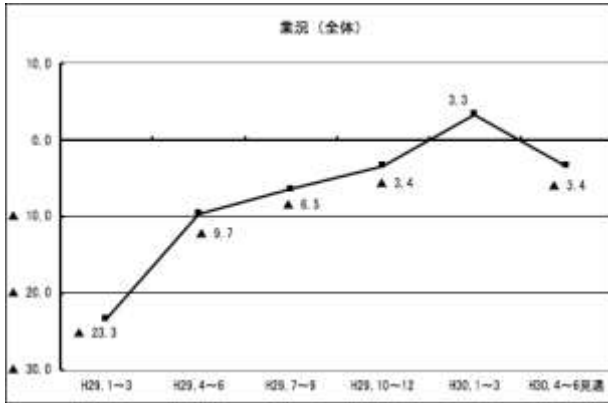
4月～6月期見通しは全体で▲1.9であり、今回調査実績から低下している。

<その他の意見>

- ・個人消費を伸ばす政策実現に期待したい。
- ・2020年のオリンピック後の経済対策が見えてこない（需要喚起等）ので、その後の景気

が不安。

- ・ 消費者の節約姿勢は顕著で、1円でも安く手に入れようとしている。
- ・ 高齢者にもインターネットをやる人が増え、ますます孤立していく人々が増え、社会問題化すると思う。



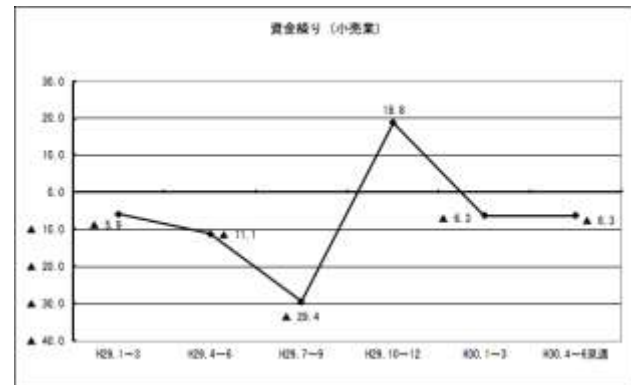
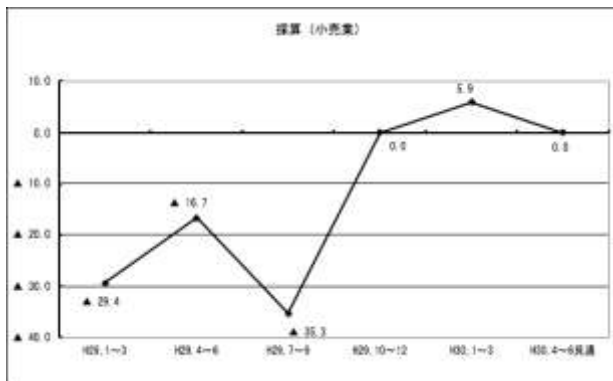
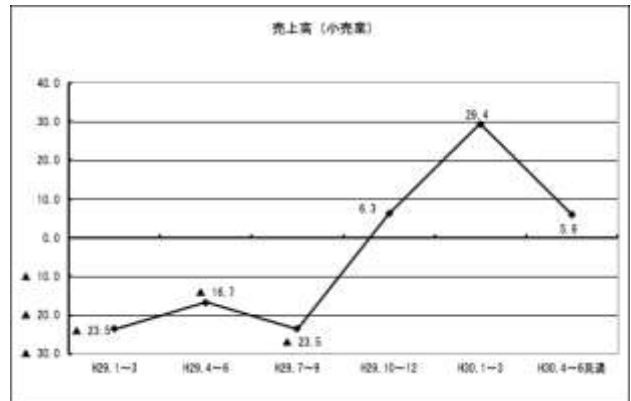
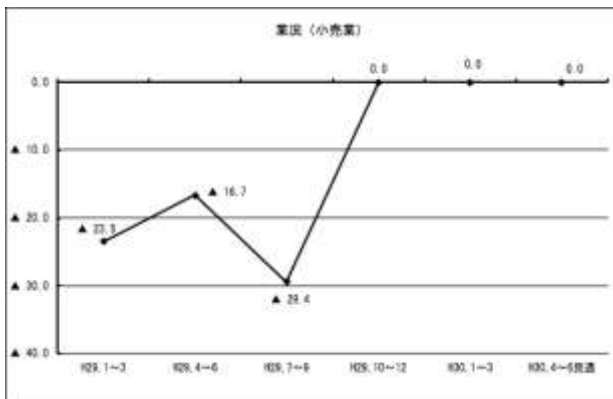
小売業

小売業の業況DIは0.0で前回調査と同じ結果であった。前回調査に引き続き、0.0を維持したという表現が正しいかも知れない。4月～6月期見通しも0.0でこの状態が維持できるものと期待されている。

売上高DIは29.4で前回調査より23.1ポイント上昇した。2四半期連続で20ポイント以上の上昇である。個別の調査結果を見ると回答の半数以上が上昇としており、好結果であったことがわかる。一方で減少が1/4弱の回答であったので、明暗がはっきり分れたと考えられる。4月～6月期見通しは5.9と大きく下げており今回の好調は長続きしないと見込まれている。

採算DIは5.9で前回調査より5.9ポイント上昇した。採算の数値がプラスになるのは調査開始以来初めてのことである。過去9年間にはない好景気の風が小売業に吹いた四半期であった。4月～6月期見通しは0.0と下げており、この調子は続かないと見られている。

資金繰りDIは▲6.3で前回調査より25.1ポイント低下した。資金繰りのDIは売上高DIや採算DIとは全く違う動きをすることが多く、今回も売上高や採算が良くなっている中で資金繰りが悪くなっている。4月～6月期見通しも今回調査と同じ▲6.3であるので、資金繰りは注意が必要かもしれない。



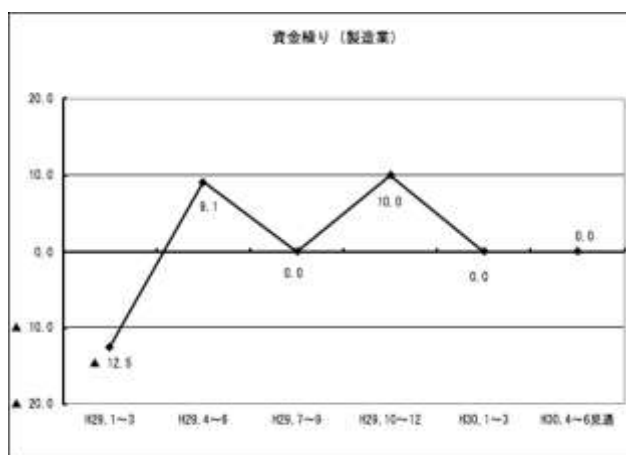
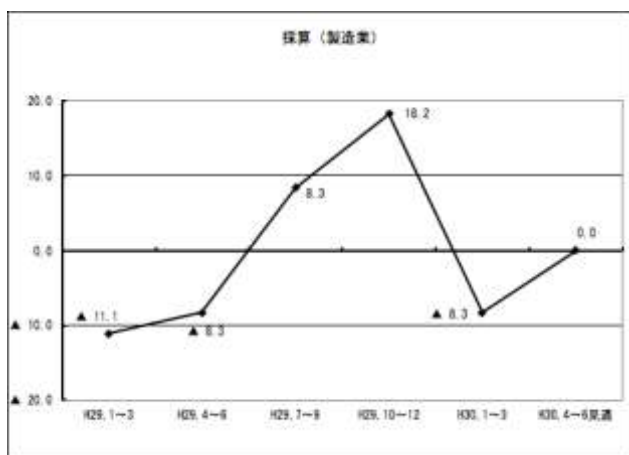
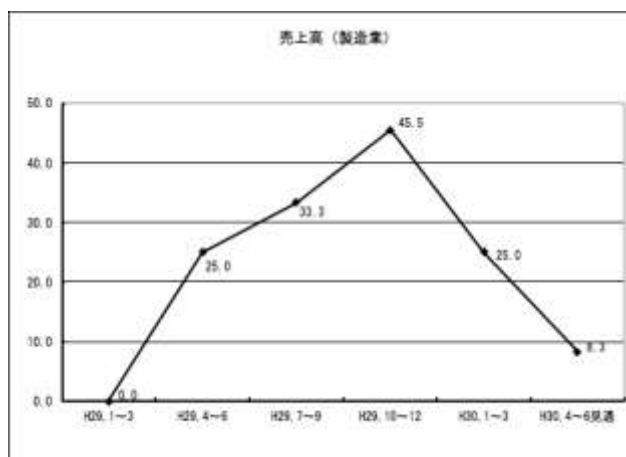
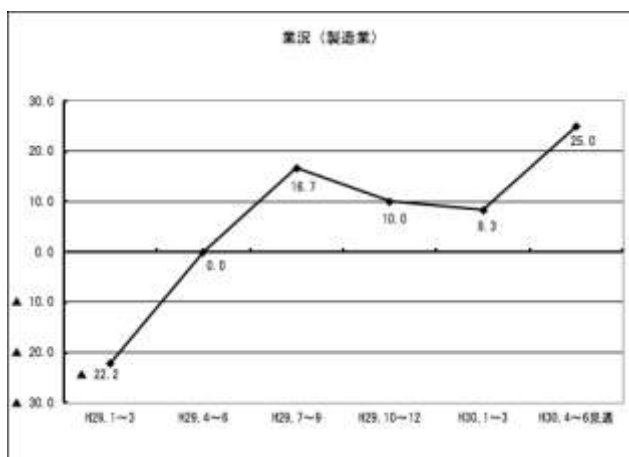
製造業

製造業の業況DIは8.3と前回調査に比べて1.7ポイント低下した。2四半期連続の低下である。個別の回答を見ると、前回調査と変わらないとする回答が少し増えた影響がDIに出たものを思われ、前回調査より悪くなっていないことがこれからわかる。4月～6月期見通しは25.0となっており、4月以後は良くなる見込みである。

売上高DIは25.0で前回調査より20.5ポイント低下した。売上高の個別回答でも、前回調査時と変わらないとする回答が多い一方で悪くなったとする回答がわずかにあり、これらが調査結果に影響を与えているようである。4月～6月期見通しは8.3とさらに数値が低下しているので売上高は厳しい見込みである。

採算DIは▲8.3で前回調査より26.5ポイント低下した。業況、売上高が低下したのに合わせて採算も低下したようになっている。4月～6月期見通しは0.0と回復しているので一時的なものと考えられている。

資金繰りDIは0.0で前回調査より10.0ポイント低下した。これは大きな影響を与えるほどの動きではない。4月～6月期見通しも0.0で安定していると言える。



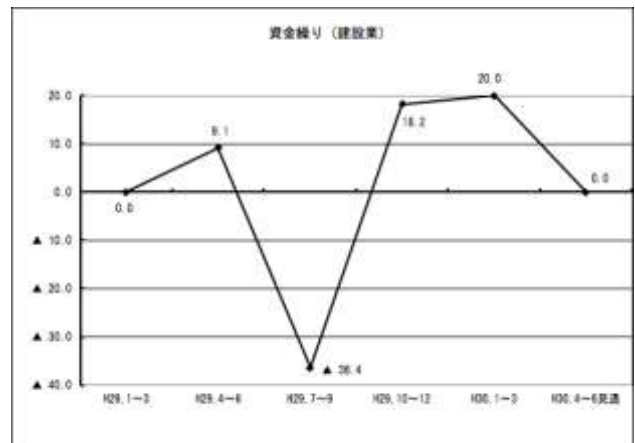
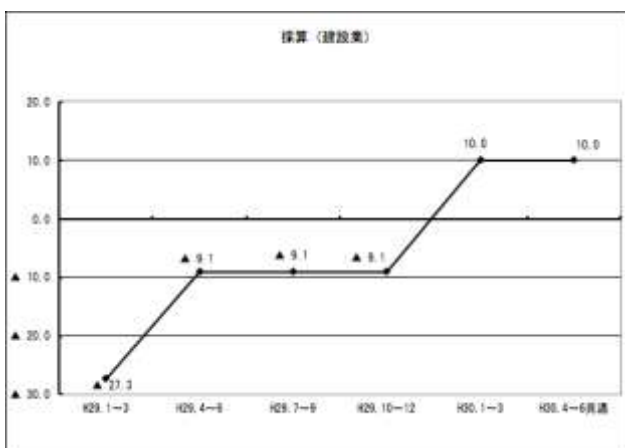
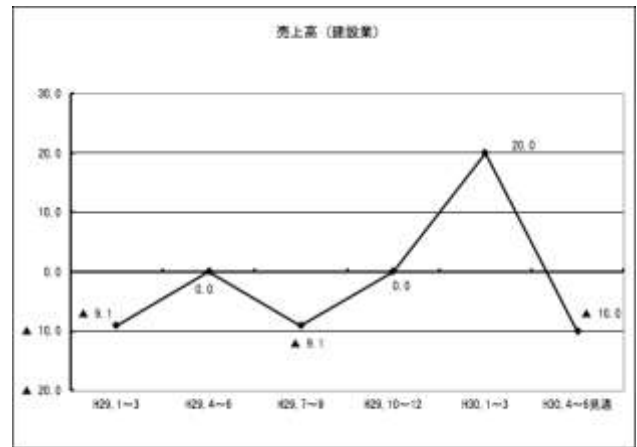
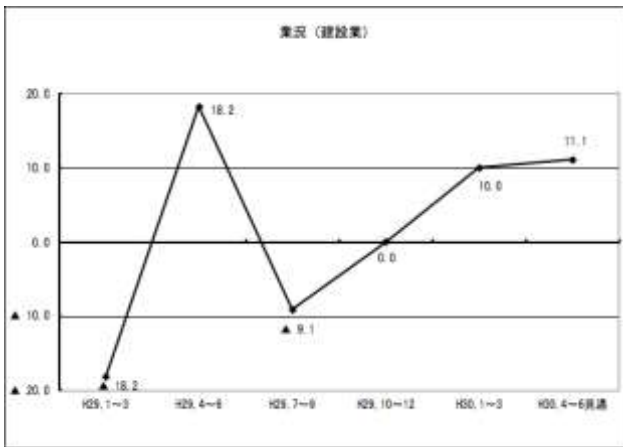
建設業

建設業の業況DIは10.0であり前回調査より10.0ポイント上昇した。2四半期連続の上昇である。1年前の平成29年1月～3月期が▲18.2であったことを考えると、今回調査はかなりよかったということも言える。4月～6月期見通しは11.1と微増であり、この調子が続きそうである。

売上高DIは20.0で前回調査より20.0ポイント上昇した。過去1年間の動きが▲9.1と0.0の往復であったので20.0という結果は好調であったことの証しである。4月～6月期見通しは▲10.0と一気に厳しくなる見込みになっており、警戒感がある。

採算DIは10.0で前回調査より19.1ポイント上昇している。業況、売上高ともに上昇しその動きに連動して採算が上昇している。4月～6月期見通しも10.0で採算は良いままの状態が続きそうである。

資金繰りDIは20.0で前回調査より1.8ポイント上昇した。資金繰りDIが良くなっているということは資金の手当が楽になっていると考えられる。4月～6月期見通しは0.0となっており、注意が必要である。



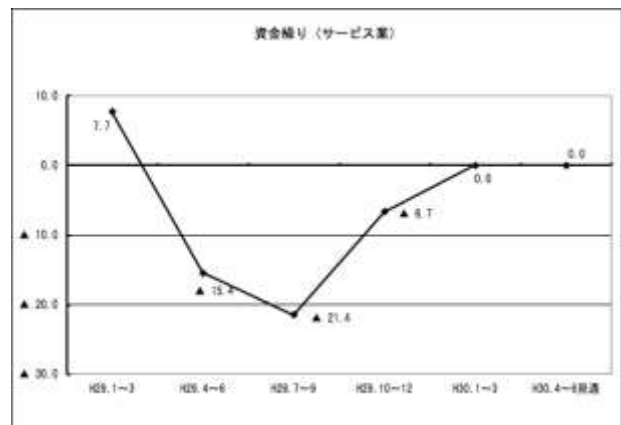
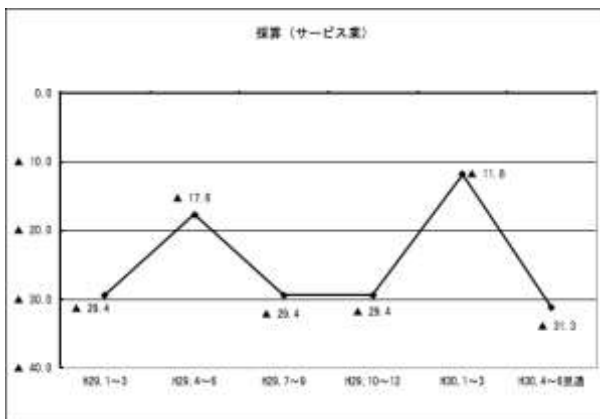
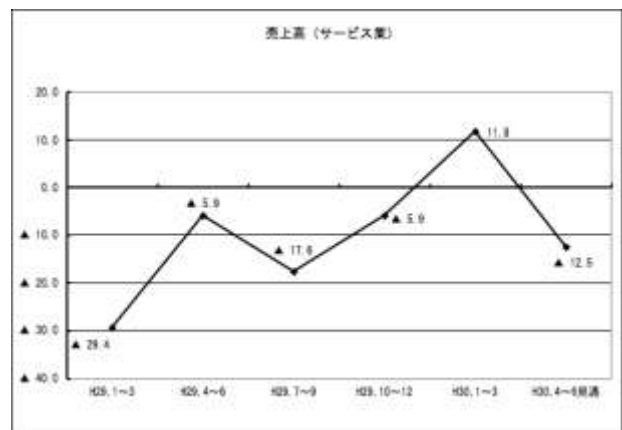
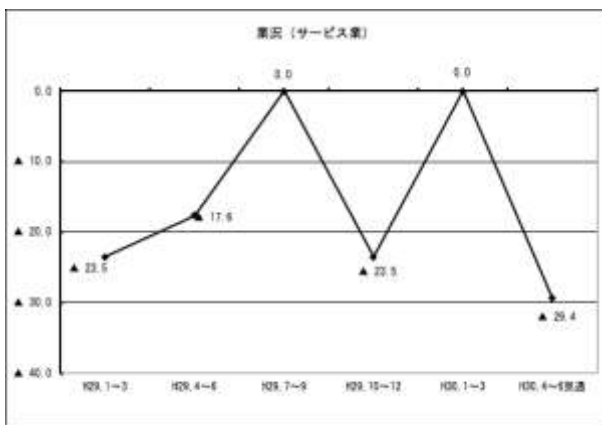
サービス業

サービス業の業況DIは0.0で前回調査より23.5ポイント上昇した。前々回の調査結果が0.0であったのでその数値に戻った格好になっている。DIが0.0なので、良いとする回答と悪いとする回答が同数であった。企業ごとに明暗がわかれた様である。4月～6月期見通しは▲29.4と多くの企業が厳しい見込みを示している。

売上高DIは11.8で前回調査より17.7ポイント上昇した。サービス業の売上高DIがプラスになるのはこの調査開始以来初めてのことである。それだけ今回調査期間は売上が伸びた企業が多かったと言える。しかし、4月～6月期見通しは▲12.5となっており、この調子は一時的なものと考えているようである。

採算DIは▲11.8で前回調査より17.6ポイント上昇した。売上高が調査開始以来の最高値であったのに対して採算にそれが反映されていない様である。4月～6月期見通しは▲31.3とさらに悪くなる見込みでありサービス業の運営は厳しいままである。

資金繰りDIは0.0で前回調査より6.7ポイント上昇した。資金繰りは安定しているようである。4月～6月期見通しも0.0であり、このところを示している。



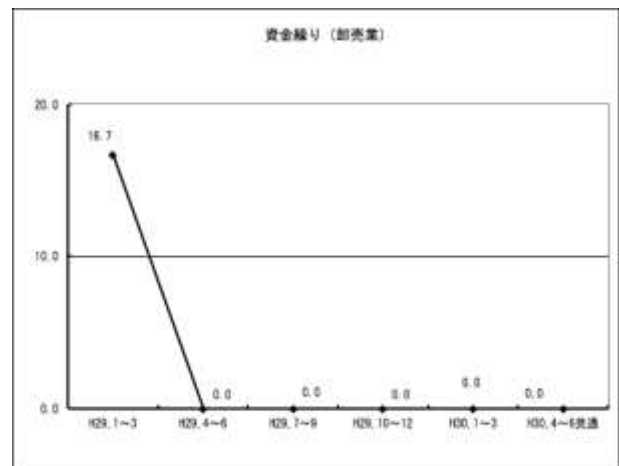
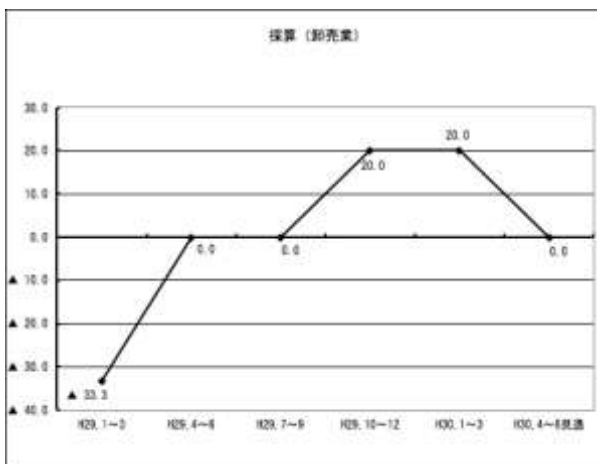
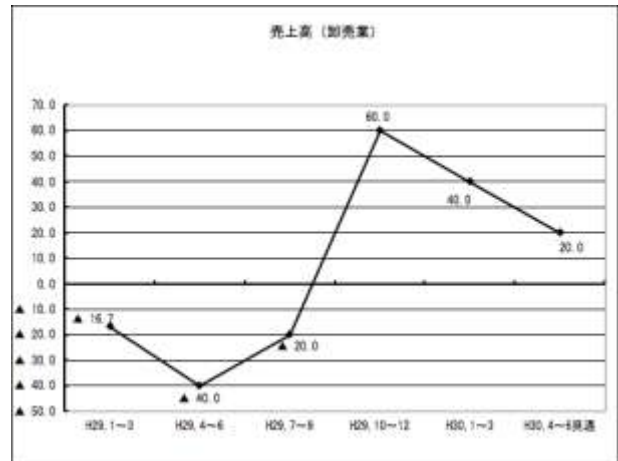
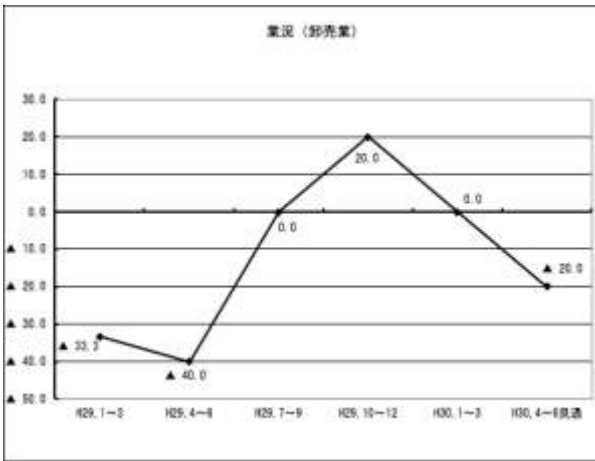
卸売業

卸売業の業況DIは0.0となり前回調査に比べて20.0ポイントの低下である。前回調査で20.0になったが、0.0に逆戻りしてしまった。ただ、過去1年間の数値に比べるとかなり良いので、今回調査時点は悪くなかったと考えられる。しかし、4月～6月期見通しは▲20.0と厳しい見込みになっている。

売上高DIは40.0で前回調査より20.0ポイント低下した。前回調査で大きく上がった数値の勢いをそのまま継続しているようである。4月～6月期見通しは20.0と徐々に数値が低くなっており警戒されるところである。

採算DIは20.0で前回調査と同じであった。売上高が良いここに加え、採算も良い状態を維持している。4月～6月期見通しは0.0と採算も悪くなる見込みであり注意したい。

DI資金繰りDIは0.0で前回調査と同じであった。4月～6月期見通しも0.0で過去を見て平成29年1月～3月期の16.7が突出しており、その他は0.0のみである。このことから資金繰りは安定していると考えてもよいと思われる。



DI 指数一覧表

| | 昨年の同期との比較 | | | | | |
|-------|-----------|-----------|----------|-----------|----------|-----------|
| | 業況 | | 売上高 | | 採算（経常利益） | |
| | 1～3 月期動向 | 4～6 月期見通し | 1～3 月期動向 | 4～6 月期見通し | 1～3 月期動向 | 4～6 月期見通し |
| 全 体 | 3.3 | ▲ 3.4 | 23.0 | 0.0 | 0.0 | ▲ 6.7 |
| 小売業 | 0.0 | 0.0 | 29.4 | 5.9 | 5.9 | 0.0 |
| 製造業 | 8.3 | 25.0 | 25.0 | 8.3 | ▲ 8.3 | 0.0 |
| 建設業 | 10.0 | 11.1 | 20.0 | ▲ 10.0 | 10.0 | 10.0 |
| サービス業 | 0.0 | ▲ 29.4 | 11.8 | ▲ 12.5 | ▲ 11.8 | ▲ 31.3 |
| 卸売業 | 0.0 | ▲ 20.0 | 40.0 | 20.0 | 20.0 | 0.0 |

| | 該当期について | | | | 昨年の同期との比較 | |
|-------|------------|-----------|----------|-----------|-----------|-----------|
| | 採算（経常利益）水準 | | 取引の問い合わせ | | 従業員 | |
| | 1～3 月期動向 | 4～6 月期見通し | 1～3 月期動向 | 4～6 月期見通し | 1～3 月期動向 | 4～6 月期見通し |
| 全 体 | 29.5 | 19.7 | ▲ 8.5 | ▲ 22.0 | 3.5 | 10.7 |
| 小売業 | 29.4 | 11.8 | 6.7 | ▲ 6.7 | ▲ 14.3 | ▲ 7.1 |
| 製造業 | 41.7 | 50.0 | ▲ 16.7 | ▲ 8.3 | 33.3 | 16.7 |
| 建設業 | 50.0 | 20.0 | ▲ 10.0 | ▲ 20.0 | 0.0 | 10.0 |
| サービス業 | 17.6 | 17.6 | ▲ 23.5 | ▲ 35.3 | ▲ 6.3 | 13.3 |
| 卸売業 | 0.0 | ▲ 20.0 | 20.0 | 20.0 | 20.0 | 40.0 |

| | 3 カ月前との比較 | | | | | |
|-------|-----------|-----------|----------|-----------|----------|-----------|
| | 資金繰り | | 長期借入れ難易度 | | 短期借入れ難易度 | |
| | 1～3 月期動向 | 4～6 月期見通し | 1～3 月期動向 | 4～6 月期見通し | 1～3 月期動向 | 4～6 月期見通し |
| 全 体 | 1.8 | ▲ 1.9 | 6.0 | 2.0 | 8.5 | 8.2 |
| 小売業 | ▲ 6.3 | ▲ 6.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 製造業 | 0.0 | 0.0 | 9.1 | 0.0 | 9.1 | 9.1 |
| 建設業 | 20.0 | 0.0 | 22.2 | 11.1 | 22.2 | 22.2 |
| サービス業 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 7.7 | 7.7 |
| 卸売業 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |

過去からの動向

